

# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

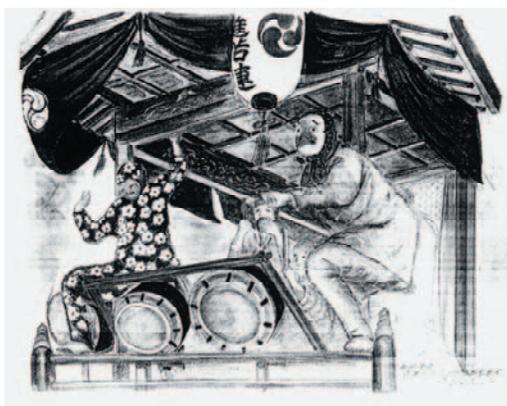
2003. 2月号

第四回

## 博物館まつり

平成15年2月1日(土)～2月11日(火)  
平塚市博物館 特別展示室・入場無料

博物館で活動するさまざまなサークルが一堂に会して展示や発表を行います。日ごろの活動の成果をごらんください。



### ★ 関連行事 ★★

#### ●博物館まつり発表会

2月8日(土)13時～16時30分 博物館講堂(入場無料)

「金目川の利水と治水」

(古文書講読会・内山田博士、石原英雄)

「生き物いっぱい!馬入水辺の学校」

(水辺の楽校生き物調べの会・臼井勝之)

「六地藏について」

(石仏を調べる会・吉川 操)

「南極老人カノープスの観測

(天体観察会・阿部陽子、新島 明)

「新しい漂着物」

(漂着物を拾う会・荒井和雄、福田良昭)

「2002年度の活動について」

(相模川の生い立ちを探る会・平野和浩)

「新たな三つの試み」

(民俗探訪会・橋本洪己)

#### ●実演

土器の野焼き(古代遺跡を探す会) 2月2日(日)

古文書の裏打ちの実演(裏打ちの会) 2月8日(土)

展示解説ツアー(展示解説ボランティアの会)

2月8・9日(10時と13時の2回)

平成十五年二月一日(土)～十一日(火)

時間 九時～十七時 月曜休館

会場 平塚市博物館・特別展示室

発表会 二月八日(土)

時間 十三時～

会場 平塚市博物館・講堂

実演 土器の野焼き 二月二日(日)

古文書の裏打ち 二月八日(土)

展示解説ツアー 二月八日(土) 九時(一回)と十時と十三時の二回

博物館まつり

# 第6回公募写真展の審査結果

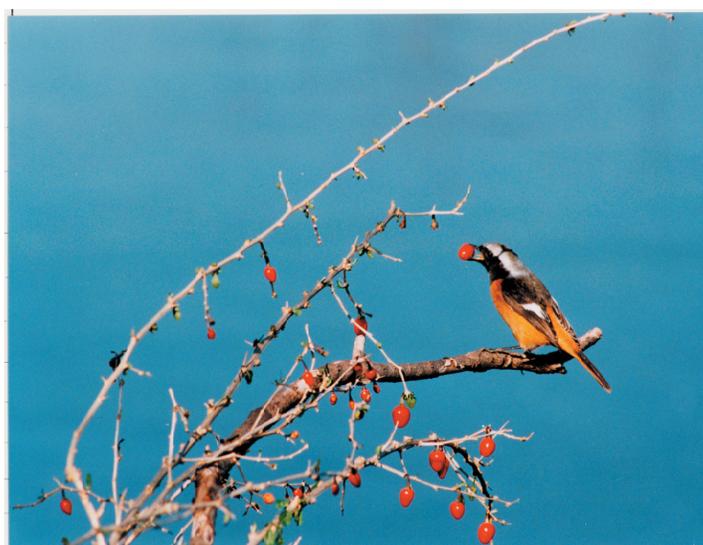


優秀賞 コスモスかほる河川敷 角谷光夫

昨年11月から12月にかけて作品を募集した公募写真展ですが、応募者は55名、応募点数は一般部門257点、デジタル部門6点、しらさぎ部門50点の合計313点でした。デジカメの普及の割には応募が少なかったのが意外な結果でした。

1月26日に行われた審査の結果、表の30点が受賞されました。なお、審査員としては吉峯達希氏、吉田嗣郎氏をお招きし、博物館長も加わって3名で審査を行いました。

入賞作を中心とした写真展を、3月1日から開催いたします。応募された全作品も展示しますので、ぜひご来場ください。



優秀賞 ジョウビタキ 小野憲一郎

	タイトル	撮影者
優秀賞	課外授業	寺川仁
	月光の富士山	増田智生
	波の華	西山和夫
	アオバズク親子	小松恵美
	濤波を浴びて	熊澤康正
	コスモスかほる河川敷	角谷光夫
	ジョウビタキ	小野憲一郎
	草取り	大貫邦子
	新成人の笑顔（成人式）	氏家勝男
	アマサギとレンゲ	西ヶ谷修一
入選	浜ひるがを咲くころ	岡本高明
	ボート乗り場	石田修一
	河口の漂流物	西山和夫
	出航寸前	熊澤康正
	大ダコだゾー	熊澤康正
	パラグライダー	富田吾市
	夜の銀河大橋	富田吾市
	廃棄船	鈴木敬盛
	野鳥の楽園地	山田房枝
	半世紀前の七夕まつり	松原恭一郎
	夏の川あそび	角谷光夫
	ヤマセミ	小野憲一郎
	金目川を渡る東海道（高麗山に沈む月）	小川祐則
	浜屋顔	笹尾敏子
	小倉橋（新旧）	笹尾敏子
	馬入の渡し体験	氏家勝男
	アオバト	西ヶ谷修一
	もんきちょう	大島克巳
	コサギ翔ぶ	竹内裕
	薄暮	深谷昭廣



優秀賞 月光の富士山 増田智生

# 日本・中国の星座

2月8日～4月6日

私たちが使っている「星座」は、古代メソポタミア文明に起源を發し、ギリシャ・ローマ時代にほとんどその形態を整えたものです。ところが、世界各地にはそれぞれの星空の解釈があり、日本でも江戸時代まではずっと中国で作られた星座体系を使っていました。歴史的な長さから言えば、日本人が今の星座を「ごく最近」と言っても良いでしょう。

星座には、それぞれの民族がどのように星空を見ていたかをあらわすという、文化的な側面もあります。中国・日本で用いていた星座を眺めて、私たちの祖先の宇宙観に触れてみませんか？



古代中国の天文観測儀器「渾天儀」(復元)

(諏訪湖時の科学館儀象堂の水運儀象台)

■投影日 毎週土・日曜日 11:00 14:00 (春休み期間中は水木曜日も投影) ■定員 86名 ■100円 (中学生以下無料)

## 寄贈品コーナー

### 「むかしの台所道具」 2月1日(土)～27日(木)

「中パッパで沸騰継続。この”かまどの強火炊き上げ”を、見事に再現しました」「剛熱かまど炊き 剛熱鍛造厚釜は日本伝承、匠の技でつくられる羽釜と同じ」「激しく炊き上がる!! 薪火炊き」。

これらは、最新のジャー炊飯器のキャッチコピーです。電機メーカー各社とも、かまどに羽釜をのせ、薪で炊いたご飯のうまさを追求し、それを再現できたことをセールスポイントにしています。私たちの暮らしからヘッツイ(かまど)が消えて30～40年経ちますが、いまだにうまいご飯の理想とされています。

ヘッツイで炊いたご飯がうまいのは火力が強いからです。ヘッツイの土壁は厚く、釜は羽釜といって鍔から下がヘッツイの穴にすっぽりはまるので熱効率が良く、釜の上には厚い木蓋が付いて蒸気を逃がしません。炊きあがるとヘッツイから釜を外し、ご飯をおひつに移しますが、この時に使われたのが藁で丸く編んだ釜敷きです。釜は、底が丸いので床に置くと不安定だし、煤で汚れるのを防ぐためにも釜敷きが必要でした。釜の底が丸いことには意味があります。昔の鉄鍋などを見ても、現在の鍋より底が丸いことに気が付きます。昔の燃料は薪や藁や木炭でした。これらの炎は、ガスよりも高く上がるので、底が平らだと底の方が焦げてしまう反面、上の方は火が通りにくくなります。底が丸いと、炎が側面まですっぽり覆う形になるので、釜や鍋の中に平均的に熱が回るのです。ガスレンジは炎が低くて回りに広がらないので底が平らな方が熱効率が良く、現在の鍋はおしなべて底が平らにできています。

「形状記憶合金採用でしっとりおいしく 新おひつ保温」。これも某電機メーカーのコピーです。ご飯の保温機能も”おひつ”を理想としています。ご飯をおひつに移すと、木が余分な水分を吸収するので、べたつかず、ふっくらとした状態を保つことができました。冬にはおひつを藁製のおひつ入れに入れて保温します。夏はおひつから竹製のご飯籠へ移し、通気性を良くしてご飯がすすめるのを防ぎました。

これらの道具による炊飯で、うまいご飯を食べる方法はほぼ極められていたといえるのですが、ガス釜が登場してヘッツイが消え、電気炊飯ジャーが普及するとともに、こうした道具は一般家庭から姿を消しました。今は”より楽しんで、昔のように美味しく”を追求している時代でしょう。ときには鍋や釜で炊いたご飯を味わってみたり、夏にはおひつに移して木の香りを楽しんでみるのも良いのではないのでしょうか。

# 博物館カレンダー

## 2003年2月の行事

2	1	土	☆	寄贈品コーナー「昔の台所道具」(～2月27日) 星を見る会「木星土星」 天体観察会「スターウォッチング調査」 博物館まつり(～2月11日)	展示室 屋上 屋上 特展室
2	5	水		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	野外 プラザ
2	6	木		展示解説ボランティアの会	特研室
2	7	金	◎	古文書講読会 星空音楽館コンサート	講堂 プラザ
2	8	土	◎ ☆ ◎	博物館まつり発表会 プラネタリウム「日本・中国の星座」(～4月5日) 漂着物を拾う会 天体観察会「カノープスを見よう」	講堂 プラザ 虹ヶ浜 海岸
2	9	日		地質調査会「読書会」	科学室
2	13	木		石仏を調べる会	特研室
2	14	金		古文書講読会	講堂
2	15	土	○	体験学習「天体望遠鏡を作ろう」	科学室
2	16	日	◎	ろばたばなし 古代遺跡を探す会 水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会「能安寺百万遍念仏」	展示室 博物館 相模川 山北町
2	19	水		裏打ちの会 民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	科学室 野外 プラザ
2	20	木		展示解説ボランティアの会	特研室
2	21	金		古文書講読会	講堂
2	22	土	○	平塚の空襲と戦災を記録する会 自然の新聞を作る会「万縄の森」	特研室 万田
2	23	日		相模川の生き立ちを探る会「自然金とめのう」	伊豆
2	27	木		石仏を調べる会	特研室
2	28	金		古文書講読会	講堂

## 2003年3月の行事

3	1	土	☆ ☆	春期特別展「公募写真展」(～4月20日) 寄贈品コーナー「平塚市山岳協会50周年展」(～3月30日)	特展室 展示室
3	5	水	○	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	野外 プラザ
3	6	木		展示解説ボランティアの会	特研室
3	7	金		古文書講読会 太ざおコンサート	講堂
3	8	土	◎ ◎	漂着物を拾う会 星を見る会「月と木星土星」 天体観察会	虹ヶ浜 屋上 科学室
3	9	日		地質調査会「調査のまとめ」	科学室
3	10	日		民俗探訪会「今年度のまとめ」	講堂
3	13	木		石仏を調べる会	特研室
3	14	金		古文書講読会	講堂
3	16	日	◎ ○	ろばたばなし 古代遺跡を探す会 水辺の楽校生きもの調べの会 体験学習「竹かごを作ろう」	展示室 相模原 相模川 科学室
3	19	水	○	裏打ちの会 民俗探訪会調査会「民間信仰調査」 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	科学室 野外 プラザ
3	20	木		展示解説ボランティアの会	特研室
3	22	土		平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会「まとめ」	特研室 科学室
3	23	日		相模川の生き立ちを探る会「嶺岡帯の地質2」	房総
3	27	木		石仏を調べる会	特研室
3	28	金		古文書講読会	講堂
3	29	土		地質調査会「巨摩層群」	野外

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制  
◎：自由参加 無印：年間会員制

☆第4回博物館まつり  
博物館で活動する13のサークル団体による展示会です。  
会期：2月1日(土)～2月11日(火)  
会場：特別展示室  
◎博物館まつり発表会  
日時：2月8日(土)13時～16時30分  
会場：講堂 参加：自由  
◎この他、会期中の土日曜日には、実演会や展示解説ツアーがあります。  
☆寄贈品コーナー「むかしの台所道具」  
昭和20～30年代の生活を振り返ります。  
会期：2月1日(土)～2月27日(木)  
☆プラネタリウム「日本・中国の星座」  
暦を作るために発達した中国の天文学は、独特の星座を生み出しました。日本の星の呼び名とともに紹介します。  
期間：2月8日(土)～4月6日(日)  
投影日：土日曜日の11時と14時  
＜参加者募集＞  
◎星空音楽館、春のライブコンサート  
プラネタリウムで、湘南のデュオ、アクアマリンのライブコンサートを行います。  
星空の下での澄み切った歌声とトークをお楽しみください。  
日時：2月7日(金)18時から19時  
場所：博物館プラネタリウム 定員：60名 参加費無料。  
先着順で当日16時より入場券を配布します。  
◎漂着物を拾う会  
海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日時：2月8日(土)9時30分～11時  
場所：平塚虹ヶ浜海岸  
参加：自由(初めてのの方は往復はがきで申し込むこと)  
◎星を見る会「木星・土星と冬の星座」  
木星・土星ときらびやかな冬の星々を望遠鏡で観察します。防寒を十分にしてお越しください。  
日時：2月1日(土)19時～20時30分  
場所：科学教室・屋上 参加：自由  
◎ろばたばなし  
民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。  
2月16日(日)(1)13時20分～(2)15時～  
場所：展示室民家 参加：自由  
○体験学習「天体望遠鏡をつくろう」  
レンズ口径4cm、倍率35倍の小型の天体望遠鏡を組み立てて、月や星を観察します。  
2月15日(土)14時～18時  
場所：科学教室、屋上 材料費：3000円 定員：10名  
申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、2月8日までに博物館へ申し込む。  
○自然の新聞を作る会「万縄の森」  
万縄の動植物を観察し、自然の新聞の記事を作ります。  
日時：2月22日(土)13時～16時  
場所：万縄の森 定員：30名  
申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、2月10日までに博物館へ申し込む。

あなたと博物館 28巻 11号 通算314号 発行 平塚市博物館 2500  
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>